

ひょうご 県知協 NEWS

〈兵庫県知的障害者施設協会機関紙〉

発行

兵庫県知的障害者施設協会

〒669-1353

三田市東山898-1 東山荘内

発行責任者 婦木 治

TEL (079) 568-5771

FAX (079) 568-1052

E-mail: higashiy@basil.ocn.ne.jp

印刷所 株式会社アカツキ印刷

事業者としてまさに
真価が問われるとき

兵庫県知的障害者施設協会
会長 婦木 治

平成15年4月、障害関係福祉の歴史的な節目の時を迎えるとして相当に緊張感と危機感を併せて持っていたことを思い出します。事業者として支援費の理念に合致したサービスの提供ができるだろうか、専門性の高い職員は確保できているだろうか、措置費時代の単価が確保でき安定した経営が可能かどうか、国の提示する福祉施策と利用者ニーズに対応できていくのかなど真剣に個々の事業方針を練ったものでした。そして、1年6ヶ月が経過する時点で支援費制度そのものを検証するどころか財源論や保険制度統合論、そして、施設の体系のあり方論議にすりかわってしまっている感じがします。制度改革前夜の激しい議論や不安はどこへ行ったのだらうかと感じています。確かに、支援費制度に移行しよる身近な行政との係わりの中でサービスの調整や伸展し財源問題が深刻になっていきます。特に居宅生活支援費の利用率は目を見張るものがあります。

新障害者プランに基づき、住み慣れた地域における障害者の自立支援と働く場の確保について

この点は、大きなポイントとなっています。特にホームヘルパーの大幅増員をはじめ在宅サービス機能は着実に要求があがっています。一方、住まいや働く場や活動の場としてのグループホームの大幅増と通所授産施設の整備増などが目立ちます。施設体系の見直しの問題とあわせて、完全に従来の社会資源だけでは障害者の主体的な地域生活は十分ではないと言いうことです。働く場の確保にしても、施設種別が縦割り複雑であり機能も明確ではありません。また施設が社会資源として十分でなく地域に偏在しています。授産工賃は低く一般就労への移行は約1%である現実から、一般就労や在宅就労支援等の働く場の拡大、そして施設の再編と役割機能分化がさらに論議されていきます。これは日中活動の場と住まいの場を分離する施設体系の新しい試みが現実のものとなっていくと思います。県施設協会としても上部組織を通して厚生労働省や関係団体への要望等をさらに強化していくかねばなりません。

支援費制度と介護保険制度との統合について

これは支援費制度がスタートする前から取り沙汰されてきました。中央社会保険審議会の障害者部会、介護保険部会の審議結果も結論が先送りされ審議すべき懸案事項も多々あります。関係団体によっても意見の食い違いが多く見られ、論点整理も難航しています。日本知的障害者福祉協会としても10項目の条件を付けて態度を明らかにしています。

真に障害者ご本人の一生を通じて個別支援を事業者として支援できる体制作りが出来るのかどうかについて

このことがわれわれ事業者として何をおいてもまず一番の使命だと考えます。制度や体系論あり方論が先行してしまい、障害者ご本人が住み慣れた地域や施設も含めた社会資源を取り込んで主体的な生活をどのように送っていくのか、この点については充分議論が深まっていないと感じています。制度や体系論は福祉施策の根本をなす重要な柱ですが、現実に地域や施設で生活をしている人たちにとって、今の現状が本当にあるべき姿として満足できるものなのかどうか、一生を通じて切れ目のない個別の支援策や社会資源利用が十分なのか、不十分であれば構築できる計画はあるのか、と言った論議も十分とは言えませんが、行政や施設との連携と共に、地域ネットワークが出来ているのか、ケアマネジメントを出来る人材が十分に配置されているのか。施設サービスで言うところ、個室や小規模多機能化などあわせて社会資源が十分にそろっている施設と、良好とはいえない施設環境や社会資源の不足した地域で生活している人たちの格差を、どのように埋めていくのかも課題であると思います。これらの課題を行政や関係者の責任にして、我々事業者が蚊帳の外にいたのではいけない。再構築の中心的存在として、障害のある方々の真の地域生活が確保され保障されるように、我々施設職員は気合を入れて取り組まなければなりません。まさに我々施設職員の真価が問われているのだと思います。



平成16年度 総会報告

平成16年度兵庫県知的障害者施設協会総会が4月28日(水)に神戸湊川神社楠公会館において開かれた。総会の開会に先立ち、協会会長婦木治より挨拶があり、続いて来賓の兵庫健康生活部部長 下野昌宏様・神戸市保健福祉局障害福祉部参事 藤村邦夫様・兵庫県社会福祉協議会会長 辻寛様よりそれぞれご祝辞を頂戴したのち、ご来賓者全員の紹介がなされた。

次いで、平成16年度施設協会の永年勤続職員表彰が行われ、会長より本年度該当者44名を代表して、ワークホーム緑友の石丸しげみ氏に感謝状が贈呈された。また、本年度施設長の紹介が行われた。

休憩ののち、総会に入り、事務局より総会成立(出席者150名・委任状119名)が確認され、いきいき宝施設長の畑光人氏が議長に選出され、議事に入った。

まず、第1号議案として、前期繰越金流用について、事務局より説明があり承認がなされた。第2号議案では、平成15年度事業報告・決算報告・監査報告の承認が為された。第3号議案では、部会の新設・委員会の廃止、役員の改選について別記のとおり承認が為された。つづいて、第4号議案として平成16年度事業計画案・予算案の審議に入り、原案通り承認された。第5号議案その他の件については特に審議する事項はなく議事はすべて終了した。



記念講演の後、金附氏に花束と記念品を贈呈

設 部 会 → 福祉ホーム・グループホーム等部会
廃止委員会 → ボランティア活動支援事業委員会

新役員紹介(敬称略)

副会長(公立施設) → 村上秀雄(神戸市立たまも園)
副会長(阪丹但地区) → 大野セツ子(ワークプラザ宝塚)
児童通園部会長 → 中崎郁子(高砂児童学園)
通所更正部会長 → 山本忠明(グリーンホーム平成)
通勤寮部会長 → 安平 猛(ようほく寮)
福祉ホーム・グループホーム等部会長 → 吉見直人(三美育成寮)
職員部会長 → 川田 晋(あゆみの里)
監 事 → 高野國昭(神戸聖生園)

※その他役員については留任

引き続き、神戸聖隷福祉事業団顧問(当協会顧問)金附洋一郎氏より「施設の将来展望」と題して講演いただき、金附氏の兵庫県社会賞受賞を記念して花束と記念品を贈呈し、平成16年度総会は終了した。

平成15年度一般収支決算書

兵庫県知的障害者施設協会			平成15年4月1日～平成16年3月31日		
支出			収入		
科目	予算	決算	科目	予算	決算
31 事業費支出	12,931,566	11,574,327	41 事業費支出	11,831,566	10,392,845
01 研修会等事業費	1,545,000	674,645	01 研修会等事業収入	1,545,000	505,000
02 社会啓発事業費	3,100,000	2,918,384	02 社会啓発事業収入	2,600,000	2,362,000
03 地区活動事業費	3,503,566	2,924,017	03 地区活動事業収入	3,503,566	2,924,017
04 部会活動事業費	583,000	735,570	04 部会活動事業収入	583,000	661,500
05 受託事業費	3,400,000	3,437,806	05 受託事業収入	3,400,000	3,166,328
06 その他事業費	350,000	758,775	06 その他事業収入	200,000	774,000
07 職員啓発事業費	250,000	125,130	07 職員啓発事業収入	0	0
08 調査研究事業費	200,000	0	08 調査研究事業収入	0	0
32 分担金支出	7,696,250	7,847,000	42 分担金収入	7,696,250	7,847,000
01 日本福祉協会費	6,058,250	6,209,000	01 日本福祉協会収入	6,058,250	6,209,000
02 県社協会費	1,638,250	1,638,000	02 県社協会収入	1,638,000	1,638,000
33 事務費支出	5,580,360	6,464,150	43 事務費収入	6,135,600	6,291,800
01 賃金	2,580,000	2,331,238	01 会費収入	6,135,600	6,291,800
02 旅費	400,000	403,380	44 補助金収入	550,000	591,400
03 一般物品費	100,000	148,132	01 補助金収入	200,000	181,400
04 印刷製本費	500,000	547,775	02 助成金収入	350,000	410,000
05 会議費	100,000	103,602	45 寄付金収入	150,000	120,000
06 役務費	600,000	650,270	01 寄付金収入	150,000	120,000
07 借料賃料	150,360	161,610	46 繰入金収入	0	0
08 光熱水費	150,000	150,000	01 特別会計繰入金収入	0	0
09 雑費	1,000,000	1,968,143	47 引当金戻入	0	0
34 繰入金支出	0	0	01 特定引当金戻入	0	0
01 特別会計繰入金	0	0	48 雑収入	310,000	308,731
35 雑支出	0	0	01 利息収入	10,000	1,829
01 特定引当金	0	0	02 雑収入	300,000	306,903
小計	26,208,176	25,885,477	小計	26,673,416	25,541,776
予備費/時期繰越金	465,240	0	繰越金取り崩し	343,701	
合計	26,673,416	25,885,477	合計	26,673,416	25,885,477

平成16年度収支予算書

兵庫県知的障害者施設協会			単位:円		
支出			収入		
科目	金額	科目	金額	金額	金額
31 事業費支出	14,310,112	41 事業費支出	13,220,112		
01 研修会等事業費	1,945,000	01 研修会等事業収入	1,945,000		
02 社会啓発事業費	3,250,000	02 社会啓発事業収入	2,610,000		
03 地区活動事業費	3,474,612	03 地区活動事業収入	3,474,612		
04 部会活動事業費	1,520,500	04 部会活動事業収入	1,520,500		
05 受託事業費	3,320,000	05 受託事業収入	3,320,000		
06 その他事業費	350,000	06 その他事業収入	350,000		
07 職員啓発事業費	150,000	07 職員啓発事業収入	0		
08 調査研究事業費	300,000	08 調査研究事業収入	0		
32 分担金支出	7,949,000	42 分担金収入	7,949,000		
01 日本福祉協会費	6,255,000	01 日本福祉協会収入	6,255,000		
02 県社協会費	1,694,000	02 県社協会収入	1,694,000		
33 事務費支出	5,895,000	43 事務費収入	6,330,600		
01 賃金	2,580,000	01 会費収入	6,330,600		
02 旅費	360,000	44 補助金収入	610,000		
03 一般物品費	100,000	01 補助金収入	200,000		
04 印刷製本費	500,000	02 助成金収入	410,000		
05 会議費	100,000	45 寄付金収入	150,000		
06 役務費	570,000	01 寄付金収入	150,000		
07 借料賃料	135,000	46 繰入金収入	0		
08 光熱水費	150,000	01 特別会計繰入金収入	0		
09 雑費	1,400,000	47 引当金戻入	0		
34 繰入金支出	0	01 特定引当金戻入	0		
01 特別会計繰入金	0	48 雑収入	310,000		
35 雑支出	0	01 利息収入	10,000		
01 特定引当金	0	02 雑収入	300,000		
小計	28,154,112	小計	28,569,712		
予備費	415,600	繰越金取り崩し			
合計	28,569,712	合計	28,569,712		

第十三回 ゆうあいスポーツ大会 井上久芳

平成十五年五月八日(土)に、明石市の明石公園陸上競技場をメインに八会場で、知的発達障害を持つ人たちの祭典「第十三回ひょうご・ゆうあいスポーツ大会」が開催されました。

この大会には、知的障害者のスポーツの一層の発展を図ると共に、県民の知的障害者に対する理解と認識を深め、知的障害者の自立と社会参加の促進に寄与する事を目的としています。主催は兵庫県・兵庫県知的障害者施設協会・兵庫県手をつなぐ育成会・兵庫県障害者スポーツ協会でしたが、明石市はじめ、明石市体育協会の各種競技団体の皆様や地元ボランティアの方々の絶大な協力とご支援をいただいたことに御礼申し上げます。

当日は絶好のスポーツ日和のなか、井戸県知事、北口明石市長を始めとする多数のご来賓ご列席のなか開会式をとり行いました。今年は開会式のなかで、平成十五年度兵庫県障害者スポーツ功労賞と優秀選手賞

の表彰が行われました。いちれつ学園長の内藤義信氏と水泳競技の小川かおりさんに表彰状と記念メダルが授与されました。つづいて「貴和作業所」の斧敬子さんと「双葉作業所」の吉原慎一郎さんが「最後まで闘うことを誓います」と力強い選手宣誓を行ってくれました。

また、今年は「ファンキーキッズ」の皆さんや、「のじぎく兵庫国体」のマスコットはばタンのパフォーマンズで応援してもらった後、各競技に入りました。

当日は兵庫県下から脚自慢、腕自慢の選手が二、二六六人と職員・保護者・ボランティア等が一、五六五人の総勢三、八三一人が集い、盛大に挙行されました。

今年の競技は種目は、陸上競技をはじめ、ソフトボール、サッカー、フットベイスボール、バスケットボール、バレーボールの団体競技と水泳、卓球、ボーリング、フライングディスクの十種目で熱戦が繰り広げられました。今年から新しく五十M走のタイムレースが加わり、上手く運営ができるか不安でしたが役員、選手、付き添い職員等の協力で問題なく実施できました。

また、それぞれの競技会場でも選手達が一生懸命頑張る、好記録がで

る等熱気あふれる大会でした。

なお、本大会は今年十一月十三日、十四日、十五日に埼玉県で行われる第四回全国障害者スポーツ大会出場選手の選考会も兼ねており、入賞者の中から、兵庫県選手団のメンバーを決定します。

団体競技の結果は次の通りです

◎バスケットボール 男子

- 一位 県立赤穂養護学校
- 二位 共に歩む会A
- 三位 県立高等養護学校
- バスケットボール 女子
- 一位 共に歩む会
- 二位 県立高等養護学校
- 三位 県立こやの里養護学校

◎ソフトボール

- 一位 共に歩む会A
- 二位 県立高等養護学校
- 三位 共に歩む会B

◎バレーボール 男子

- 一位 (親善試合) 朋友会
- バレーボール 女子
- 一位 朋友会
- 二位 県立高等養護学校
- ◎フットベイスボール
- 一位 県立高等養護学校B
- 二位 すばる福祉会
- 三位 県立高等養護学校A

◎サッカー

- 一位 共に歩む会
- 二位 県立姫路養護学校
- 三位 県立いなみ野養護学校

今、課題として、第六回全国障害者スポーツ大会(のじぎく兵庫大会)に向けて選手育成や十七・十八年度の県大会・選手会をどうするのか等検討しています。関係者の皆様のご協力とご支援をいただきたいと思いますのでよろしくお願い致します。

施設協会スポーツ担当

井上久芳



開会式、井戸知事も激励に

地区情報

阪丹但地区

「出会い」のアート

武庫川すずかけ作業所
アート担当 長友郁代

アート活動との出会い

絵本作家のはたよしさんがすずかけ絵画クラブをスタートさせてから13年が経ちます。知的な障害のある人の通う社会福祉法人一羊会では絵画クラブを中心として1991年より障害者の芸術活動に取り組んできました。場所が武庫川すずかけ作業所のアトリエに移ってから8月に1回のペースで約30人の方が参加され、それぞれの個性を発揮した思いの絵を制作されています。今では美術館やギャラリーへの出品など、世に出る機会も次第に増えてきました。

ロビン・ロイドさんとの出会い

そんな2003年10月、その男性は作業所にやってきて、1枚のCDを取り出し、熱い思いを語ったのでした。ある展覧会で見たすずかけの作品にとっても感動したこと。そこで購入したすずかけの作品集に惹き込まれ、一日中、本を眺めていたこと。そして、そこから自然とメロディーが聞こえはじめ、その2日後には13曲が完成したこと。すずかけの作家達への感謝の気持ち、色々の国に住み、学び、旅をして、世界中の民族楽器を演奏する演奏家のロビン・ロイドさん（ア

メリカ、イリノイ州出身）との出会いでした。

そこから、私達のCD制作がはじまりました。ロビンさんの音楽はアメリカの楽器カリンバを中心に奏でられる静かで心温まるメロディーです。1枚1枚の絵に曲がつけられ、モチーフになる絵によって豊かな想像力を私達に与えてくれます。音楽や作品のイメージを大切に、遊び心のあるCDを作ることが私達の目標です。ケースは市販されているプラスチックケースは使わず、温かみのある紙を選び一から作りしました。中には14枚のすずかけの作品を使ったカードが入っています。カード状にしたのは、音楽を聞いて元になった絵を当てるゲームをしたり、部屋に飾ったり、大切な人に送ったりできるように、手に取った人が自由にイメージを広げていってほしいという気持ちからでした。そうしたい、思いのつまったCDは今年の4月にやつとのことで完成しました。



演奏中のロビン・ロイド氏

私たちのCDがもたらした出会い

CDが出来上がり、この数ヶ月間はCDの販売を記念して関西にあるいくつかのギャラリーやレストランでロビンさんのライブとすずかけの作品展を行いました。行くところ、行くところ、新しい出会いがあり、絵だけを見せ、発表していた時とは違う、ロビンさんの音楽との響き合いから生まれていくつかの思いがけない嬉しいことがありました。「絵なんかどうという風に見ていいのかわからない。」と書いていた人が音楽によって、気持ちがほぐされ、「自然な流れを、ありのままをうけいれればいいんだ。」と書いていたことがあったことは私の何よりの喜びでした。

絵や音楽のことだけに限らず、障害のある方の存在について考えるときに、そんな風に「ありのままを受け入れ」、一人一人との出会いを大切に思えることができれば、私達もそして障害のある方も共に生きやすくなるのではないかと思います。アートというのはそうした一人一人のパーソナリティの違いを認め、受け入れるという姿勢を、他人に対して押し付けがましく声高に叫ぶのではなく、その作品や作者の思いを通して、鑑賞者に自然に感じ取ってもらう事を平和的に即すものではないかと考えたりします。

（今後の予定）

・9月発行の通販雑誌『サンタブック』（フェリシモ）にてCDの販売予定
・9（金）武庫川すずかけ作業所にロビンさんのライブがありま
す（入場1000円1ドリンク付き）
お問合せは・0798・43・3760
長友

神戸地区

「ほくしん」障害者地域生活支援センター

社会福祉法人「フロンティア」

神戸市北区にある、上野丘更生寮、ヨゼフ寮、陽気寮、そして小規模作業所・はっち共同作業所の四団体は、神戸市立フルーツフラワーパークの清掃業務を共同で行なっており、フレンドリーに、と言うことで平成五年から「Fの会」と名付けて活動されています。「Fの会」では、施設在在者の就労の可能性を検討する中で、地域で働ける人（在宅者も含め）の支援のあり方、施設が地域に何ができるのかの論議を継続的に進めて来られました。その一つの方向性として、地域の障害者への介護事業を「Fの会」と北区の身体障害者療護施設「二郎苑」五団体が社会福祉法人設立認可を申請し、平成十五年四月から、身体障害者、知的障害者、児童の居宅介護事業所「エフ」としてスタート。北神地域の障害者地域生活支援センターとして同年六月から本格的な事業を展開されています。神戸市は、障害児者地域療育等支援事業と市町村障害者生活支援事業を併せた障害者地域生活支援センターを神戸9区内、7区に社会福祉法人に業務委託をしてこの事業を展開しています。神戸市の面積の44%が北区、とにかく広い面積、北神というのは、北区の中の鈴蘭台を中心とした「本区」以外の地区、山田、淡河、八多、有野、有馬、大沢、長尾、道場の8地区を「ほくしん」と位置付ける事を初めて知りました。

障害者地域生活支援センターの立上げに、既存法人ではなく5団体が連携して新規法人を立上げるのはフレンドだけと聞き、北区の兵方の顔を思い浮かべて納得しました。

今秋からは、各施設の利用者の中から選抜された方を中心に、就労支援に向けてのジョブコーチ派遣も含めた本格的な事業に取り組みとのこと、また移動介護従事者（ガイドヘルパー）研修を行い、北区在住者の地域生活支援に向けての取り組みも着々と進めておられました。

（山崎玲輔・記）

播淡地区

「播淡地区の動き」

播淡地区施設長会会長 粉原 和生

この4月、新たに2施設を仲間を迎えた当地区は、加盟総数62を数える大所帯となりました。そんな中、今年度も利用者支援の充実や各施設間の連携を図るため別表のようなさまざまな事業を展開中です。

従来から播淡地区には、職員代表者が中心になって事業を企画、実施していくという伝統的な運営スタイルがあります。つまり、各施設から選出された職員代表者で研修、研究、文化それぞれの委員会を構成し、その委員会の中で主体的に事業を進めていくという手法です。これは、20数年前、各施設の職員有志が集い、交流を深め合う中から生まれた組織が播淡地区の母体となったことと大きく関係しています。

各施設から選出された職員代表者が、それぞれの事業を企画・実行し

ていくという現行のスタイルは、施設長会がその責任上関与する部分を除けば、職員代表者の「自主性」「主体性」が遺憾なく発揮される機会でもあります。世代交代が進む中ではありますが、各施設の核になる職員が、各事業に新しい視点を加えつつ、継続、発展させつつあることは私たちの誇りでもあり、強みでもあります。

年度前半の事業としては、5月28日に第16回ばたん親善運動会を開催しました。当日は好天に恵まれ、40施設から参加した868名の利用者が精一杯体を動かし心地よい汗を流しました。舞台裏では、スタッフ職員51名、ボランティア18名がフル回転し、播淡地区の総力を挙げた大会となりました。また、7月23日には、関西福祉科学大学の津田耕一氏を講師としてお招きし、個別支援計画に關する職員研修会を開催しました。支援費制度移行後、関心の高いテーマとなってきたこともあって、各施設から67名の職員が参加、熱心に聞き入っていました。8月の下旬には公開一泊研修会を開催し、施設長、代表者が一同に会して、支援費制度の動向や第三者評価について研修を積む予定です。

今後の課題としては組織としての力をどう維持していくかということが挙げられます。加盟施設は増えたものの、施設規模や業務量などの関連で、委員長など事業の中核となるべきポストを担う施設が限られてきつつあります。加えて実際の活動がほとんどない施設が存在するなど、組織の硬直化は少しずつ進んでいます。

「国に何をしてもらうかを問うのではなく、国のために自分は何がで

きるか考えよう」これは、故ジョン・F・ケネディ米大統領が、大統領就任に際し国民に訴えた言葉です。加盟している施設の多くがこんな思いを自然に抱けるような組織運営が目標です。

平成16年度事業計画

ふくふく事業 ばたん親善運動会(6月)
研究事業 施設職員研修会(年2回)
研究事業 公開一泊研修(8月)
文化事業 ばたん・ゆうあい文化祭(2月)

県庁内での知的障害者研修事業

県庁で研修中です

4月から兵庫県庁内で知的障害者が研修していることをご存知ですか。知事室秘書課、雇用就業課、障害福祉課で3人の方が研修しています。「宝塚さんかの家」の長谷川さんは障害福祉課で研修中。毎朝7時前にG.Hを出発して、バス、阪急電車、地下鉄を乗り継ぎ8時45分に県庁に到着します。県庁3階の障害福祉課、課のほぼ中央、山本障害福祉課課長の斜め前に彼の席があります。まずは新聞の切り抜き作業。指定された記事を切り抜き、台紙に貼り、社名を記入してコピーをとり、整理していきます。封筒の課名スタンプ押し、文書配付等々、次々と仕事をこなしていきます。山本課長は「彼が課の雰囲気随分変えてくれています。彼が休みの水曜日は寂しい」と仰っています。お昼は庁内の食堂やお弁当、すっかり庁内も覚え

休憩時間も楽しく過ごし、昼からの仕事に向かいます。兵庫県知的障害者短期研修事業は、今年度から始まりました。兵庫セルブセンターが委託を受け、この事業を運営しています。6ヶ月の研修事業もあわず、10月からは2期生の研修も始まります。研修奨励金で、「初めて自分のお金で、自分で選んだ服を買った」とうれしそうに話す秘書課の研修生。ボードに張ってある仕様書を見ながら、丁寧に一つひとつマイペーで仕事をこなしていく雇用就業課の研修生、様子を見に行くと机の下からVサインを送ってくれます。彼らは、デスクワークも充分できることを我々に実証してくれました。何よりも、山本課長が言われるように「県庁職員の意識変革を彼らがやってくれている」、4月から彼らとかわつてきた者として実感できる言葉です。長谷川さん達の笑顔は、自信に溢れています。

（兵庫セルブセンター 山崎玲輔）



新聞切抜き作業中の長谷川さん

新佳職員研修会開催しました。

兵庫県の知的障害者施設協会

研修委員 小松正和

標記研修会を7月30日(金)に姫路自治福祉会館において109名の参加を得て開催致しました。婦木会長が交通事故による渋滞に巻き込まれた為、ひょうご・自閉症発達障害センターのご紹介と講議の間に挨拶をはさんで頂くという形になりました。また事務局も交通事情により到着が遅れ皆様にご迷惑をお掛け致しました事、誌面をお借りしてお詫び申し上げます。研修は午前中ひょうご・自閉症発達障害センターの亀山副センター長に『自閉症の人たちへの支援』と題して、午後からはNPO法人播磨地域支援費サービス第三者評価機構の河原事務局長様に『障害のある人のニーズ』と題してご講演頂きました。以下ご参加頂きましたお二人の方からの報告を掲載させて頂きます。

【ななくさ学園 東 泰良様】

今回の研修は、利用者との関わりや声掛け等を振り返る良い機会になりました。

午前の部『自閉症の人たちへの支援』では、自閉症の概念や、自閉症本人の声により自閉症への理解を深めるといった事や、利用者と関わる上での支援におけるキーワード(障害の特性と対応の基本)を踏ま

えた上で、演習を行いました。演習の内容は、課題分析(行動の手順を小さな行動単位に分け、時系列的に並べて記述するというもの)を行なった上で靴を脱ぐ、ジュースを買う等の日常でよくある場面を想定したものです。現場での利用者と照らし合わせる事で、より具体的に講演を聞きイメージすることが出来ました。

午後の部『障害がある人のニーズ』では、河原氏の体験談や障害をイメージすること、障害について主観的に考えることから始まり、その後、第三者評価からみた実情等を踏まえ、客観的に捉えることにより、それぞれの違った角度から障害というもの考えることとなりました。そうすることにより、『障害とは何か』という根本的なものについて改めて考えるよい機会となりました。

学生から社会人となり、この四ヶ月間は、毎日が精一杯で『自分を振り返る』ということがあまり出来ていなかったように思います。この研修に参加することで、自分の行動についてゆつくりと見直し反省することが出来ました。福祉支援者のプロとして、障害に対するしっかりとった知識の上で、支援する側とされる側の両者が満足出来るような関わりを心掛けていきたいと思っています。

【清流園 山元 拓馬様】

私は今年の四月から生活支援員として働かせて頂いているのですが、今回の研修を受講させて頂いて感心することが沢山あり、そして色々な

事に気付く事が出来ました。例えば私が担当させて頂いている利用者さんに自閉症の方がおられるのですが、言葉に頼りすぎて支援をしていた事や、環境の整理もきちんとせず視角支援(活動内容の写真を見て頂く)をしていた事に気付きました。これらの失敗は自閉症の基本的理解が欠けていたから起こった事です。勉強はしているので知ってはいたのですが、仕事の忙しさからつい雑になってしまっていたんだと思います。今後は定期的に勉強などをして、どのようなにすればより理解していたのか、という事を試行錯誤していかようと思っています。

そして、今回の研修で一番印象に残った事です。『施設職員は障害者から障害(社会での生き辛さ)を取り除いていく事が仕事』という言葉でした。私達健常者は当り前のように社会で暮らしていますが、障害者にとっては生き辛いという事が沢山あると思います。信号一つにしても、信号の意味が理解出来ない方はとても危険な目にあってしまうと思います。しかしその信号を作ったのは私達健常者です。つまり、障害者が社会を生き辛いと感じているのは私達のせいとも言えるという事です。私も園では、こちらの勝手に利用者さんに難しい作業を頼み、少し休憩をしているとせかしてしまったりしていました。反省です。今後は最初から難しい事を利用者さんい求めるのではなく、スモールステップで一段一段ステップアップしていく

てもらえれば、と考えています。少し反省文のようになってしまいましたが、これからも色々な研修に参加して『山元さんが支援員でよかった』と思っ頂けるよう頑張っていきたいと思います。

新施設訪問

社会福祉法人 あかりの家

『ワークホーム高砂』

知的障害者通所授産施設

新幹線が良く見える食堂、全面ガラス張りの事務室。天井には明り取りが設計されたフロアの階下は、新鋭の機械が設置された洗濯工場。大型の連続洗濯機、乾燥機、シーツロール機、タオルフォルダー、大きな作業台には山盛りのタオル類、いや待てよ、私は授産施設に取材に来たんだったよな?と、一瞬目を疑うほどのここは「クリーニング工場」でした。福祉と企業が一緒になったこんな事が可能になる、障害のある人たちが「働き」、企業がその流れを作り出す、それぞれの専門性が連携している形がそこにありました。あかりの家四郷分場が、発展解消した「ワークホーム高砂」は、クリーニング作業の授産施設です。取材中も4台トラックが何台も出入し、仕上がったタオルやシーツを出荷し、片方の入り口には、搬入車。「今日中に終わるのですか」「まだ少ない方ですよ」西田施設長。土曜日も作業があり、土日と日月の交代で休日を確保されているとの事。技術がアップするにつれ、作業量(受注量)



仕上げ作業室で作業中

所在地 高砂市伊保町中筋1331
電話 0794・49・0701
開設 平成十五年四月一日
施設長 西田 謙司
定員 三十名 現員 三十三名

も増え、大手スポーツクラブの制服のクリーニングもされています。スポーツクーラーが随所に配置された作業室では、4人が同時に使えるシーツローラー、鮮やかな手捌きでのタオルたたみ、洗濯班、シーツ班、たたみ班に配属された利用者の方々の仕事に対する集中度、熟練度には職人（失礼！職員）の方々のスキルの高さを感じました。「今後は、医療関連施設の仕事にも乗り出していきます」医療関連の認可工場の証を取得し、今後は医療関連施設のリネン関係の市場にも参入されていく事でしょう。



甲子園球場から南に下りた所に総合施設としてドリム甲子園があり。老人施設のシルバークースト甲子園、障害者施設のドリム甲子園です。ドリム甲子園の一階二階が『夢の虹工房』三階が身障者でデイスービス『シーバードデイ』になっています。一階にある「さをり工房」では、色鮮やかな反物が織り上がり、ボランティア等の協力の元、ペンケースや小袋が商品として出来上がっています。二階の「パン工房」では、シルバークースト御用達のパンを焼いています。元大手パン会社におられた方が託職員になって、本格的なパン工房として、開所三ヶ月頃からスタートしました。大型のパンオーブンからは、食パン、菓子パンが焼きあがります。シルバークーストのロビーで、野田施設長から施設の概要等をお聞きする中で、「この清掃業務もやっています」シルバークーストの清掃（ワックス掛け）や、年度中に同建物の四階喫茶店業務も計画中とかを聞かせていただきました。「しかし、喫茶店は土日業務だから・・・課題ですね」

いかにして利用者の作業工賃を上げていくか、授産施設としての命題です。西宮には授産施設が多く、又



パン工房で菓子パン製作中

所在地 西宮市枝川町17・41
電話 0798・42・6510
開設 平成十五年三月一日
施設長 野田 忠良
定員 五十名 現員 四四名

シルバークーストセンター等との共存で、市内の公園等の清掃業務は新規参入が難しい中、施設の前の公園清掃業務を受託、又、市内の作業所と共同での除草作業などもやっております。小規模作業所『夢の虹工房』時代から西宮市授産活動振興委員会の主力メンバーとしての活躍もあります。

西宮市は南北に広い地域です。送迎バスは、六甲山を越えて走ります。若い利用者が多く、職員も若い。元気のいい夢の虹を描いて頂きますよう。

7月、記録的豪雨に見舞われた新潟県、早く両県の知的障害者福祉協会にお見舞いを送らせて頂きました。

兵庫県知的障害者施設協会
会長 婦木 治 様

新潟県知的障害者福祉協会
会長 中澤 和雄

盛夏の候、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
このたびは、当県の豪雨災害に際しまして早速お心のこもったお見舞いをお送りくださりまして、まことにありがとうございました。自然の猛威の前になす術もなく大きな被害を被りましたが、幸い私どもの関連では人的な被害はなく、お蔭様で復興も概ね順調に進んでおります。現在、人手を要する作業はほぼ終わり、通所や作業を再開する施設も出てきておりますし、被害が大きかったところについても今後は専門業者をお願いしての復旧作業が中心となる予定です。
私どもも力を合わせて、一日も早く通常の業務を再開できるよう努めてまいります所存でございます。
今後とも御支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、貴協会のますますの御発展を心より祈り申し上げ、御礼といたします。

兵庫県知的障害者施設協会
会長 婦木 治 様

福井県知的障害者福祉協会
会長 角野 元保

豪雨災害に対する義援金のお礼

猛暑が続いておりますが、貴職におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
さて、この度の福井県豪雨災害に対し、貴協会よりご丁寧なお見舞いをいただきありがとうございました。皆様のご厚意に対し、心より感謝申し上げます。
幸いにして、被災した地域におきまして人的被害はございませんでしたが、一部の施設で浸水・土砂崩れ被害を受け、現在復旧に向けて取り組みを行なっているところでございます。貴協会よりいただいた義援金は、早速被害を受けた施設に送り復興に役立てていきたいと思っております。
当協会といたしましても、被害を受けた施設の一日も早い復興のため出来る限りの支援をしております所存です。
あらためまして、皆様のご厚意に感謝申し上げます、甚だ略儀ですがお礼といたします。



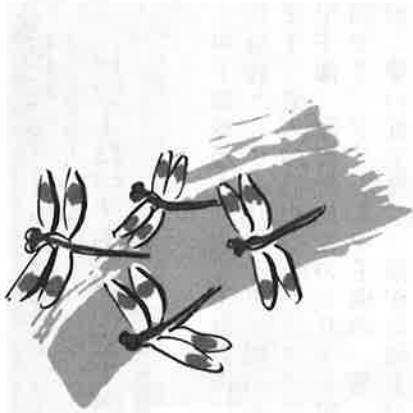
去る5月29日(土)30日(日)の2日間、神戸国際展示場・神戸国際会議場・ポートピアホテル・ホテルゴルフを会場にきょうさん第27回全国大会in兵庫が開催されました。開催にあたり兵庫県知的障害者施設協会の皆様には開催準備の実行委員会に加わって頂くと共に、団体協賛金、個人協賛金でも大きなご支援をいただきました。物心両面にわたる力強くあたたかいご支援に心から感謝申し上げます。有り難うございました。

お陰様で大会は天候にも恵まれ大きな事故もなく成功裏の内に終えることができました。

大会の参加者は目標通りの3000名でその内1000名は障害のある方でした。来賓には井戸兵庫県知事を始め70名の方々にお越しいただきました。大会交流会は1000名の参加でジャズピアノ、中国獅子舞、サンバなどを楽しみました。ボランティアは延べ1600人でした。ボランティアの皆さんの元気な声と親切な対応は大会の明るい雰囲気を作り「兵庫で元気をもらった」という声をたくさん聞きました。

オープニングセレモニーは「震災をのりこえ、生きる力とぬくもりをこの街から」というサブテーマを全国に発信したいと準備を重ねてきました。その中で、大会テーマソング「明日へのメッセージ」も生まれました。オープニングセレモニーは30分間という短い時間でしたが、感動で涙を流す参加者の姿も見られました。また、大会全体を通して大会テーマ「だれもが、心ゆたかに地域で生きつづけるために」に多面的に迫る事が出来たのではないかと考えています。

障害者福祉が大きく変わろうとしている今、私も障害者福祉関係団体に課せられた課題は非常に大きいと考えております。障害者の生活をより豊かなものにしていくため、共に手をつなぎ真の障害者福祉のあり方を追求していきましょう。今後とも宜しく願います。



《日誌抄》

3月12日	近畿地区第4回役員会 (和歌山市)
15日	ひょうご県知協ニュース第61号発行
18日	日本福祉協会第2回評議員会 (東京)
27日	全国障害者スポーツ大会強化練習会(ボウリング) (三田市)
4月8日	第6回役員会 (三田市 総合福祉保健センター)
12日	全国発達支援4種通園連絡協議会 (東京)
20日	ひょうご・ゆうあいスポーツ大会大会最終説明会 (明石市 産業交流センター)
5月7日	総会(神戸市 楠公会館) 近畿地区第1回役員会 (大阪市)
7日	ひょうご・ゆうあいスポーツ大会会場設営準備 (明石市 陸上競技場)
8日	第13回ひょうご・ゆうあいスポーツ大会 (明石市 陸上競技場・中央体育館ほか)
12日	近畿地区第1回役員会 (大阪市)
18日	明石市スポーツ協会挨拶回り (明石市)
6月1日	第1回役員会 (三田市 総合福祉保健センター)
3日	阪丹但地区第1回役員会 (宝塚市 ワークプラザ宝塚)
7日	全国障害者スポーツ大会三者協議会 (神戸市)
9月10日	全国施設長会議 (東京)
16日	全国障害者スポーツ大会派遣選手選考会 (神戸市 県民会館)
19日	近畿地区入所更生施設長研修会 (京都市 ひとまち交流館)
21日	全国障害者スポーツ大会選手育成強化計画会議 (神戸市 県総合リハ)
21日	播磨地区第1回役員会 全国支援スタッフ部会 (東京)
22日	神戸地区施設長研修会 (三重県 名張育成会)
29日	全国グループホーム研修会 (高知県)
30日	障害者福祉プラン改定意見聴取会 (神戸市 県民会館)
7月1日	全国障害者スポーツ大会選手育成強化計画会議 (神戸市 県民会館)
8日	全国デイサービス事業分科会 (三田市 総合福祉保健センター)
9日	第2回役員会 (三田市 総合福祉保健センター)
16日	近畿地区第2回役員会 (楠公会館)
29日	近畿地区会長会議 (神戸市 東急イン)
30日	新任職員研修会 (姫路市 姫路自治福祉会館)
9月1日	ひょうご県知協ニュース第62号発行 福祉の集い(神戸市 勤労会館)

〔編集責任者 山崎玲輔〕